

認知症に関する活動計画（概要）

石川県作業療法士会では、昨年度に引き続きコロナ禍で活動することの難しさに配慮しながら以下の2つの柱を掲げて活動を計画する。

1) 地域包括ケアシステムの中で、認知機能が低下しても住み慣れた地域で暮らすことを望む人やその家族の支援と地域づくりをすすめる。コロナ禍でも途切れることなく支援体制を整えることができるようなツールの開発や運用方法を発信していく。市町の様々な取り組みの現状をしっかりと把握し作業療法士の参画を支援していく。

2) 認知症の特徴を踏まえた作業療法の提供、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに各士会員が実践できるような支援を行ない、その技術向上に取り組む

地域での認知症予防の推進

認知症予防と認知症になっても安心して暮らせる地域づくり「共生」を目指すためのプログラムとして金沢市の依頼を受けて県士会が監修して作成した「いつでもどこでも脳活プログラム」の冊子や動画を活用し、コロナ禍でもリモートで教室運営ができるように取り組みをすすめている。昨年度から本格運用している脳活プログラムの開発・運用に認知症対応委員会として参画していく。



地域での認知症の人と家族の支援事業

県内の各市町での認知症初期集中支援チームへの県士会員の協力状況や認知症カフェの開催状況、他団体との協力体制の現状について情報収集を行なう。現在参画している作業療法士への支援、まだ作業療法士が参画できていない地域への参加・協力を推進する。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って活動の狭小化が継続している状況にある。また、感染状況によって地域の活動の場や活動内容に差が生じ、格差が生じている様子も見られている。昨年度作成した「暮らしのひと工夫紹介」のチラシや動画の活用を推進していく。



協会との連携事業

協会からの調査内容を確認し、全県士会員を対象としたアンケート調査を実施する。協会との意見交換に積極的に参画し、認知症の人と家族への支援と効果的な作業療法の提供を推進する。